

様式2

平成29年度 学校自己評価表

教育方針	健全な心身を培い、国際社会や情報社会に適応し、たくましく「生きる力」を身につけ、創造性豊かな人物を育成することを目指す。
中長期目標 (学校ビジョン)	<p>① 学力に応じた学習指導に努める。 「わかる授業」の展開と工夫をする。きっかけを与えることで、意欲的に取り込む姿勢を育てる。</p> <p>② 能力と適性を発揮させる指導に努める。 資格の取得、ボランティア活動の参加。興味や関心が持てることを用意する。生徒への啓発により「やればできる」を体感させる。野外での学習を行う。生徒に考えさせる時間を与える。</p> <p>③ 深く生徒を理解する 生徒についての情報を共有し、指導の一貫性を図る。常に生徒に対して声をかけ、生徒との心の交流を図る。保護者との連絡を密にし、生徒の小さな変化にも気を配る</p>

重点目標	<p>1 より一層の「米子キャンパスのかたち」の推進 ・分掌の再編と分掌内及び分掌間の有機的な連携の強化 ・総務部「広報係」との連携充実</p> <p>2 学校評価の推進 ・校内委員会の立ち上げと本校教育の検証</p> <p>3 予算執行の工夫 ・予算委員会で年間計画と執行調整を検討 ・光熱費等の節約</p> <p>4 一層の学力向上と大学合格者の増加 ・教科全体で3学年との指導する体制の確立</p> <p>5 通信制課程の一層の充実 ・生徒個々に対応した進路指導 ・わかりやすい授業の実施、職員連絡会の充実 ・学校と家庭との連携 ・退学者・休学者数の減少</p>
------	--

29年度当初					評価結果 12月現在		
評価項目	現状	具体項目	具体目標	具体方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1. 学ぶ姿勢の育成と授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ○北海道本校への報告課題提出が滞っている生徒が若干名いるので、教科担当・学年担任が徹底指導する。 ○わかる授業を展開する。 ○大学を目指す生徒については特別補習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科で学習内容の充実を図り、授業の工夫・改善に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人ひとりに応じた指導を行い、学力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○少人数教育で生徒が「わかる」喜びを感じられるよう努める。 ○月2回の職員会を実施し、教員間で生徒に関する情報を共有し、理解に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業に集中できていない生徒も若干いるが大部分の生徒は意欲的に取り組んでいる。 ○報告課題の提出は良好で生徒も熱心に取り組んでいる。 ○生徒用ノートパソコンを整備し、休憩時間・放課後の有効利用に努めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が授業を理解できるよう教員側の不断の研究と努力がさらに必要となる。 ○授業力向上に向けて教科間の学び合いが進むよう取り組む。研修の機会を設ける。
		<ul style="list-style-type: none"> ○受験科目についてはismの教科担当者に指導を依頼し、継続的に学習させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○4年制大学、短大の合格者3名を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎週月曜日から木曜日に放課後1時間程度の補習をする。 ○夏期・冬期・春期の休業中に7日間3時間程度の特別補習を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度の4年制大学・短大合格者は5人合格率100%であった。 ○現2年生についても、受験への意識高揚を促しており、今後も継続して指導していきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ismとの連携もうまくなっている。今後は塾(若葉学習会専修学校)の授業に授業料無償で参加できる学習環境を整えたい。
2. 基本的な生活習慣の定着と自立心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○長期欠席者は減少傾向にあり、引き続き指導の徹底を図り、社会人としての規範を身につけさせたい。 ○本年度は災害時における非難訓練および台風など異常気象における登下校の安全を徹底指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○無断欠席と遅刻を減らし、規律ある生活習慣を身につけさせる。 ○欠席・遅刻の多い生徒について担任・スクールカウンセラーが連携しながら支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭連絡の徹底。 ○退学・休学の防止に努める。 ○欠席・遅刻の解消、学習態度の向上に努力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○無断欠席の場合には即日に各担任が家庭に連絡する。 ○毎月、月末に書面で欠欠状況等を各家庭に報告する。 ○必要に応じて担任が家庭訪問する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年に1,2名の長期欠席者があるので、継続して家庭との連絡を密にして長期欠席者の登校を促していきたい。 ○声掛けや面談室利用を通して、生徒を理解するように努めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○スクールカウンセラーとの連携をより強化する。 ○欠席・遅刻指導、あいさつの励行等、担任・学年・保護者との連携を密にし、粘り強い指導を行っていく。 ○基本的な生活習慣の確立を呼びかけたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ○災害時における生徒等の安全確保対策や防災教育の充実について日頃から高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○避難訓練を実施。 ○災害時における対応に関するLHRの実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○LHRなどで日頃から防災上必要な安全教育及び避難訓練の徹底をはかり防災意識を高めるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○登下校時の災害に備え、通学路で危険の多い場所、安全な場所をよく確認しておくことに努めた。 ○生徒等一人一人の災害に適切に対応する能力が確実に身につけられるように努めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の更なる実態把握および適切な対応のために保護者との連携を強めたい。 ○災害指導も強化していきたい
3. 情報発信と地域貢献による開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者、地域、生徒への情報提供が不足しており、本校の良さを知ってもらうためには直接学校を見ていただく機会を設定していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の良さを積極的に情報発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校見学会への案内を学校廻りにより徹底させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校に関心をもていただくためにいつでも学校をオープンしておく。各学年とも授業参観できるようにする。 ○10月から翌年の2月まで、毎月1回の学校見学会を行う。 ○学校関係者を集めて、11月下旬に米子市で学校説明会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間を通して、学校をオープンにしておき、いつでも見学できる体制を整えている。 ○学校見学会を10月21日、11月3日、12月9日は実施済み。あと1月20日、2月24日を予定している。 ○学校関係者の説明会は11月24日に米子市で実施した。鳥取・島根両県から7校の中学校の先生が参加された。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度は渉外担当が3人で、広範囲にわたって募集活動ができたので、さらに中学校及び高校との連携を図っていきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ○本校の学習内容を生徒にアピールする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間を通して学校をオープンにし、いつでも見学できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コピー使用の削減 ○照明の調整 ○印刷物の残りを再利用 ○エアコンの設定温度の調整、使用しない教室等は電源をoffしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○電気代については各職員の節電の意識により、昨年より減少している。印刷物については職員の協力を得て不要印刷物の回収を行い再利用することができた。できるだけ校内で印刷できるものは印刷するように努めている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き印刷の校内印刷できるものについて校内印刷に努める等、経費の節減成果に努める。今年度の節減成果を継続するとともに、職員の節電意識の向上に努める。

※評価基準 A:十分達成100% B:概ね達成80%程度 C:変化の兆し60%程度 D:まだ不十分40%程度 E:目標・方策の見直し30%以下